

第8回認定の公平性に関する評価委員会議事要旨

開催日時：令和7年8月25日(月) 9:30～11:15

場所：独立行政法人製品評価技術基盤機構 大阪事業所セミナールーム及び
Teams会議 併催

議題：

1. 委員長選出
2. 前回議事要旨の報告（報告事項）
3. IAJapanの組織について（報告事項）
4. IAJapan認定活動方針及び認定活動目標（報告事項）
5. マネジメントシステムの運用状況及び改善の取組の概要（報告事項）
6. 公平性に対するリスクへの取組結果（審議事項）
7. 認定スキームの開発等について（報告事項）
8. その他

配布資料：

- 資料0 第8回認定の公平性に関する評価委員会議事次第
- 資料1 認定の公平性に関する評価委員会委員名簿
- 資料2 第7回認定の公平性に関する評価委員会議事要旨
- 資料3 IAJapanの組織について(非公開)
- 資料4 IAJapan認定活動方針及び認定活動目標
- 資料5 マネジメントシステムの運用状況及び改善の取組について(非公開)
- 資料6 公平性に対するリスクへの取組結果について(非公開)
- 資料7 認定スキームの開発等について

参考資料：

令和6年度業務実績について（非公開）

議事内容：

はじめに

委員会開催にあたり、認定センター所長から挨拶があった。その後、各委員から自己紹介があった。

議題1. 委員長選出〔資料1〕

規程に基づき委員長の選出が行われ、野田委員が委員長として選出された。

議題2. 前回議事要旨の報告〔資料2〕

資料2に基づき、事務局から前回議事要旨の報告が行われた。本報告について、委員から特段の意見はなかった。

議題3. IAJapanの組織について〔資料3〕

資料3に基づき、事務局からIAJapanの組織における人事異動等に伴う変更点の報告が行われた。

議題 4. IAJapan 認定活動方針及び認定活動目標 [資料 4]

資料 4 に基づき、事務局から 2025 年度の IAJapan 認定活動方針及び認定活動目標の説明が行われた。

委員からの主な質問等は次のとおり。

委員：今後、コンサルティング業務についてどのように扱うことになるのか。

事務局：JAC(日本認定機関協議会)の活動成果として、ISO/IEC 17011 や ISO/IEC 17065 が許容するコンサルティング範囲について明確にした文書を公表した。これまでコンサルティングに抵触するおそれがあるかどうか明確でなかったために助言を控えていたことについても今後は言及できることになり、よって、認定や認証について助言する機会が増えるだろう。これは経済産業省などから期待されていることでもある。公平性やコンサルティングの考え方を含めて、今まで不明確であった内容を明確にしたうえで、適切に実施していく予定である。

委員：審査を受けて形だけ認定の看板を維持するだけではなく、審査自体が役に立つというところはやはり非常に大事だと思う。ご回答のように、(コンサルティング業務範囲の) 形を明確にしていただけると、審査員や審査を受ける試験所等にもメリットがあるため、本委員会の場でもよいので、次回説明していただきたい。

事務局：次回改めてご報告させていただく方向で検討する。

委員：ILAC と IAF に関して、統合についての進捗を簡単にご説明願いたい。

事務局：現状では進捗がなく、新たな情報として伝えられることは無い状況である。本年 10 月に開催される IAF/ILAC 合同総会にて得られた情報について共有させていただく。

議題 5. マネジメントシステムの運用状況及び改善の取組の概要 [資料 5]

資料 5 に基づき、事務局から IAJapan のマネジメントシステムの運用状況及び改善の取組について報告が行われた。

委員からの主な質問等は次のとおり。

委員：2025 年度の苦情件数について、既に 3 か月間（4～6 月）で昨年度の件数を超えているが、どのような背景があったのか。

事務局：4 月 1 日に認定申請審査業務システムに不具合が発生し、同システムを一定期間停止させたことで、メールや SharePoint 上での審査関係のやりとりが増えた。通常と比べて作業量が増えたことで、チェックポイントも増え、負担が重なってしまったという背景が一因と思われる。

委員：2019 年から不適合業務の件数が下降しているようだが、コロナによって変わったことなど、何か影響はあったか。

事務局：テレワークが増えたことによって、コミュニケーション不足はあったかもしれないが、コロナ以前から認定センターはテレワークが出来る体制を整えていたこともあり、件数についてはあまり影響がないと思われる。

議題 6. 公平性に対するリスクへの取組結果 [資料 6]

資料 6 に基づき、事務局から公平性に対するリスクへの取組結果についての報告が行われ、取組及びその結果の内容について了承が得られた。

委員からの主な質問等は次のとおり。

委員：項目 7 について、状況の詳細を説明願いたい。これは、審査チームの編成に対しての適合性評価機関からの異議申立ての機会だと思うが、ISO/IEC 17011 7.4.2 項では、チーム編成に対しての異議申立ての機会を提供している。ISO/IEC 17011

7.4.2 項との関わりについて、どう考えているのか。

事務局：原則、7.4.2 項に従い、「審査編成時に細心の注意を払うとともに、事業者からの審査チームの入れ替えの要望には利害抵触以外での変更理由を認めない」ことを内部で周知した。

委員：チーム編成に対する苦情もしくは異議の表明のところの書きぶりを、「異議に関しては双方の了解をいただいた上で～」という文言があると分かりやすいのではないか。

事務局：分かりやすくなるよう、表現の修正を検討させていただく。

委員：項目 15 について、認定申請審査業務システムに不具合が見つかった日、システムが停止していた期間を具体的に教えてほしい。

事務局：4 月 1 日の朝 11 時に稼働し始め、約 3 時間後に停止させた。その間、3 事業者において、アップロードしたファイルが他の事業者がアップロードしたファイルに置き換わってしまった。置き換えられ、表示されたファイルは、2 事業者のファイルであった。システム停止期間は 4 月から 7 月までの 4 ヶ月である。

委員長：認定のプロセスに時間がかかってしまったということはあったのか。

事務局：認定プロセス、審査プロセスとも問題はなかった。

委員：認定申請審査業務システムに関して、職員やユーザー、事業者の中で、今後の対策や日頃から気を付けていることはあるか。

事務局：本件は、移行事業者側の作業で不具合が発生したことに起因するもの。システムの使用方法については、マニュアルの作成や説明会などを実施し、ミスが発生しないように努めている。

委員：移行事業者とよく議論し、対策を立てるべきだと思う。

委員：項目 8、9、14 について、不備があればアップロード出来ない仕組み等をシステム内に取り込むといった対策はできないのか。

事務局：ファイルのアップロード時に、ファイルに間違いがないか注意喚起をする機能は設定済みであるが、システムにファイルのチェック機能を付けることについては、相当な改修費用がかかる。現在運用している 2 つのシステム（認定業務管理システム及び認定申請審査業務システム）を、業務効率化の観点からも 1 本に統一化したいという考えもあるため、その際に、システムへの誤アップロードに対する対策を含めていきたいと考えている。

委員：項目 7 の事案については、技術専門家にも審査のあるべき姿についての指導が最低限必要かと思う。

事務局：本来ならば、技術専門家が審査員にアドバイスし、審査員が事業者にインタビューをするのだが、実際、技術専門家が直接事業者と意見を交換する場合もある。審査員だけでなく技術専門家にも、そういった問題点があることを周知し、解決していきたい。

議題 7. 認定スキームの開発等について [資料 7]

資料 7 に基づき、事務局から認定スキームの開発等について報告があった。

本報告について、委員から特段の意見はなかった。

議題 8. その他

資料 8 に基づき、事務局から令和 6 年度の業務実績のポイントについて説明が行われた。

委員からの主な質問等は次のとおり。

委員：エコマークの認定について、エコマークを発行している複数の認証機関に対して認定を出したということか。

事務局：エコマークを発行している認証機関は公益財団法人日本環境協会の1機関のみであり、認定した認証機関も同協会のみである。

＜事務局からの案内＞

事務局：次回（第9回）委員会については、来年度秋頃の開催を予定している。

以上